



ふちえ

《本校の教育目標》

よく考え進んで実行する子
なかよく助け合う子
心も体もきたえる子

足立区立淵江小学校



《淵江小ホームページ》

足立区立淵江小学校

検索

～ 「学ぶとは『知る』こと」 「一揆一撈」 ～

校長 向山 敦子

令和5年度もいよいよ最終月となりました。この1年間友達や先生と一緒に、多くのことを学び、体験し、それが経験となって一人一人が大きく成長してきたことと思います。みなさん、この1年を振り返り、いかがでしたでしょうか。

学ぶとは、「今まで自分が知らなかったことを知る」ということです。勉強面だけではありません。友達とのけんかなど、困ったことが起きたときでも、そこから何かを学ぼうとする姿勢があれば成長できます。そして、同じようなけんかを防ぐこともできるようになるはずです。そのために、学校という場があります。友達がいるから、いろいろな考えを知ることができます。友達がいるから、トラブルに発展することもあります。友達がいるから、少し高い目標でも頑張れます。

6年生の外国語の授業を参観したとき、英語で自分が伝えたいことを伝えるために、わからない言葉をタブレットで調べ、友達に伝えたり、考えたりする場面に遭遇しました。淵江小の子供たちは素晴らしい力を蓄え、発揮しています。

年度末にあたり、ご家庭でもこの1年間を振り返り、子供たちの成長を実感していただければと思います。

先日「一揆一撈(いちあいいっさつ)」という言葉に出会いました。直訳すると「相手の力を確かめる」ということだそうです。そこに込められたメッセージは、「どんな人にもしっかりあいさつする」だそうです。

「あいさつ」は、実は禅から生まれた言葉です。禅を修行しているお坊さん同士が出会ったとき、相手がどのくらい悟りの道を進んでいるかをたしかめるやりとりを意味する「一揆一撈」が短くなって「揆撈(あいさつ)」になったそうです。「揆」は相手に近づくこと、「撈」は相手にせまることなどを意味します。当初のあいさつは真剣勝負のようなものだったそうで、「あいさつ=敵ではない証拠」ということだったそうです。仏教でこうしたやりとりが生まれたのは、中国で仏教が禁止された時代のことだそうです。そのとき、禅の修行僧たちは山の中に隠れ、たまに出会う修行僧同士で問答をして悟りの道を探したそうです。つまり「一揆一撈」は、相手が仲間かどうかを確認するためのものだったのです。西洋では握手をしてあいさつします。これも「私は武器を持っていません」ということを示すためです。つまり、「あいさつ」は味方や仲間であることをアピールするものなのです。「あいさつが心の距離を縮める」ということです。

朝のあいさつ当番の子供たちは、道行く大人にも声をかけ、返してもらおうとうれしいという経験をしています。学校では、「あいさつ」を大切に指導を続けていますが、まだまだ校舎内で出会うお客様には、なかなか気持ちのよいあいさつができません。「あいさつは心の距離を縮めます」。これからも意識して取り組み、場に応じた気持ちのよいあいさつが響く学校にしていきたいと思っています。

4月は進級・進学の時季です。クラス替えもあります。不安を感じているお子様には、新しい友達・先生と出会うときは、まずしっかりあいさつする。そうすれば、相手との心の距離がぐっと縮まるから大丈夫!とアドバイスをお願いします。

令和5年度、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。